

VOICE of the Graduates

国立大学法人

北陸先端科学技術大学院大学

世界最高水準の教育・研究を通して

時代を動かす リーダー達



世界最高水準の教育・研究を通して

時代を動かすリーダー達

ダイバーシティ環境に富み、専門分野が融合しあう、

世界最高水準の教育・研究環境を備えた JAIST。

その修了生達に共通するのは

知識そのものや正解の決まっている問題を解く能力ではなく、

正解のない課題に挑戦するための、

思考力、判断力、推理力、交渉力、独創性など

定型化できない能力を備えていること。

そういった「知的たくましさ」を武器に

時代を動かすリーダー達を紹介します。



CONTENTS

1

吉留 正記 ◆ Masaki YOSHITOME

三菱化学株式会社 ポリマー本部
機能性樹脂事業部 グローバル事業ユニット

2

長谷部 礼 ◆ Aya HASEBE

ヤフー株式会社
決済金融カンパニー開発本部デザイン部

3

田柳 恵美子 ◆ Emiko TAYANAGI

公立はこだて未来大学
社会連携センター センター長・教授

4

木村 俊也 ◆ Syunya KIMURA

株式会社ミクシ
mixi サービス部 部長

5

浅沼 雅行 ◆ Masayuki ASANUMA

株式会社構造計画研究所
電波技術室 第一級陸上無線技術士

6

天満 美和 ◆ Miwa TENMA

帝人株式会社 オートモーティブ プラスチックス
グレージング事業推進部

7

飯塚 亜紀子 ◆ Akiko IIZUKA

株式会社日立製作所
研究開発グループ

8

加西 弘人 ◆ Hiroto KASAI

ソニー株式会社 MBU LS 事業部
エンジニアリングマネジャー

9

宮川 真紀代 ◆ Makiyo MIYAKAWA

株式会社資生堂 化粧品情報開発センター
プレスデージブランド情報開発グループ

10

荒木 俊輔 ◆ Syunsuke ARAKI

ポストン・サイエンティフィックジャパン株式会社
インターベンショナルカーディオロジー事業部 マーケティング統括部 プロダクトマネジャー

11

磯貝 典仙 ◆ Norihisa ISOGAI

パナソニックアドバンステクノロジーズ株式会社
先行基盤推進室 室長

12

阿部 真美子 ◆ Mamiko ABE

株式会社東芝
研究開発センター システム技術ラボラトリー

13

田高 礼子 ◆ Reiko TAKO

日本放送協会 放送技術研究所
ヒューマンインターフェース研究部

14

櫻井 快勢 ◆ Kaisei SAKURAI

株式会社ドワンゴ
UEI リサーチ研究員

15

小野 哲雄 ◆ Tetsuo ONO

北海道大学
大学院情報科学研究科 教授

16

西田 梢 ◆ Kozue NISHIDA

シヤチハタ株式会社
R&D 統括室

企業人にとって大切な 様々な考えを受けとめる 柔軟性が培われました

Voice of the Graduates

1

吉留 正記 ◆ Masaki YOSHITOME

三菱化学株式会社 ポリマー本部
機能性樹脂事業部 グローバル事業ユニット

1997年材料科学研究科(現マテリアルサイエンス研究科)博士前期課程修了

◎モノづくりへの志が導いた、 研究から仕事への一本道

いい意味で学校らしくない、息苦しさがない、JAISTに入学して受けたのはそんな印象でした。学部の延長ではないため経歴も様々な人がいろんな所から集まり、自由な雰囲気ができあがっていたのでしょう。非常に過ごしやすかったことを憶えています。

私は繊維系の技術者だった父親の影響もあり、中学生の頃から将来は技術的な分野で仕事をしたいと考えていました。手で触れられる、目で見えるモノをつくりたいという思いです。大学院に進む際も、アカデミック色の濃いものより、企業で役立つような応用分野の研究をと考え、多彩な研究内容でそれに応えてくれそうなJAISTを志望しました。寺野稔先生の研究室に配属されて、手がけた研究は合成樹脂に関連する重合触媒をテーマとしたもの。研究室では全体で1つの大きな目標を掲げ、それに向かって個々が各々のテーマを追いかけていく形をとっていて、寺野先生は全体をいかに活力ある集団にできるか腐心されていたと思います。月に1、2回、集まって飲んだり、楽しく厳しく、居心地の良い研究室でした。

その後弊社に就職し、期せずして担当したのが樹脂の設計開発という、JAISTで得た知識をそのまま生かせる仕事。これはラッキーでした。同時に、目に見えない部分でも先生や学生の様々な考え方に接した経験は、相手を真摯に受けとめることの大切さを教えてくれました。他者の意見を吸収できる柔軟性は企業人としての成長を促すもの。これからJAISTで学ぶ人は、ぜひ、多様性のある環境で、“聞く”という姿勢を意識して過ごしてください。

「これがしたい!」と 明確に言えるかどうかで、 研究生生活の充実度が違います

Voice of the Graduates

2

長谷部 礼 ◆ Aya HASEBE

ヤフー株式会社

決済金融カンパニー開発本部デザイン部

2015年知識科学研究科 博士前期課程修了

◎ やる気には支援を惜しまない 環境があります

法学部で商法などを勉強していた私が、全く畑違いであるJAISTの知識科学研究科に進んだのは、同研究科の西本一志先生が取り組まれていた、人の暮らしを豊かにするためのメディアづくりというテーマに惹かれたのが大きな理由です。学部時代にスマートフォン向けのアプリをつくっていたこともあって、文系から理系への転向には特に抵抗を感じず、「まあ、なんとかなるだろう」くらいの気持ちで臨みました。ただ現実には、理系の基礎知識が自分にないことで、辛く感じる局面もありました。例えば研究室で参加したハードウェアの開発コンペでは、他のメンバーとの共同作業にあまり貢献できなかったんです。そこで、できないことを無理に頑張るのではなく、まわりの人が苦手なことを見つけ、それを補うようにして力を発揮すればいいと頭を切り替えました。それからは徐々に上手な関わり方ができるようになったと思います。こういった面を含めて、JAISTでは誰かに教えてもらうのではなく自分で考え、解決するスタンスの大切さ学びましたね。

もう一つ、JAISTで身についたのは、自分がやりたいと思ったことはハッキリ言うということ。そのおかげで西本先生の下で学会に参加するなどの貴重な体験をさせてもらい、2年間で非常に充実したものになりました。学生の希望に応え、支援を惜しまないのがJAISTのいいところだと思います。その後、「人の生活の支えになるサービスをつくりたい」という思いから弊社に就職しました。仕事の場でも自分の意志をしっかりと伝えることができ、念願だった社内での研究に道が開けようとしています。

領域に縛られない指導を 受けられることが JAISTの大きな魅力です

Voice of the Graduates

3

田柳 恵美子 ◆ Emiko TAYANAGI

公立はこだて未来大学

社会連携センター センター長・教授

2008年知識科学研究科 博士後期課程修了

◎ 修士論文が結んだ JAIST との縁

20年近い間、主にフリーランスで科学技術分野の出版やPR、また研究評価のコンサルティング等に携わり、仕事のかたわら大学院に通い学位を取得しました。その後は、大学教員に転身して研究を継続しています。そもそもJAISTとの縁は、「産学官連携」に関する修士論文がネット上で梅本勝博先生の目にとまり、私の研究に興味があるご連絡をいただいたのが始まりでした。研究室へのお誘いを受け、知識科学で博士号をとることは私の経歴に照らして非常にマッチしたものであると感じ、入学を決心しました。

JAISTで学んだことは、その後のキャリアに直接的な好影響を及ぼしたと思います。現在勤務している、はこだて未来大学はシステム情報科学部のみ単科大学ですが、私はほぼ唯一の社会科学系教員として教養科目や社会情報系の分野を担当しています。このポジションを務められるのも、JAISTで情報科学と社会科学の融合領域で学び、情報を学ぶ学生にとって何が教養として必要かを把握できたことが大きいのです。文理融合の環境がもたらした恩恵といえるでしょう。JAISTは開学当初から縦割りの学問領域に縛られず、学生一人ひとりの問題意識を様々なジャンルに関連づけながら指導することをモットーとしています。今起きている社会変革を深く理解し、新しい社会システムをデザインしたいと考える人にとって、JAISTはうってつけの環境を提供します。それぞれの研究過程で情報技術を活用しようと思えば、それを助けてくれる先生も多く、コンピュータを用いた新しい方法論を試すことができるでしょう。研究の可能性を広げるこの環境を、多くの学生にうまく利用して欲しいと思います。

社会で戦っていく力を 最短で獲得できる環境

Voice of the Graduates

4

木村 俊也 ◆ Syunya KIMURA

株式会社ミクシィ
mixi サービス部 部長

2007年情報科学研究科 博士前期課程修了

◎ 互いに高め合える本当の仲間ができた

大学院を選定した中で、優れた先生が多く、研究に集中できる環境であることがJAISTに進学する決め手になりました。入学して改めて感じたのは、先生方や学生と密にコミュニケーションをとれる恵まれた場であること。研究室では主担当の島津明先生、副担当の白井清昭先生と毎日顔を合わせ、非常に近い距離でアドバイスを受けられましたし、他の研究室の先生と研究について議論することも多々ありました。これは研究する者にとってベストな状況であり、大きな価値があると思います。また、この交流から生まれた関係は現在に繋がっています。私が近年委員を務めた学会の全国大会などアカデミックな場で、在学時にお世話になった先生方とは今でも交流を重ね、情報交換を行っています。さらに、JAISTでは異なる分野から学生が集まっているため、学生同士で授業の課題について解説し合ったり、研究室ではアイデアを出し合ったりと、互いの得意不得意を補い合うことができます。授業や研究の厳しさの中でもお互いを高め合える、真の仲間を得たことは何よりの収穫です。

卒業後はJAISTで培った言語処理の力で世の中に貢献したいという気持ちで現職に就き、自らレコメンドエンジンなど言語処理を応用したサービスを構築するなど、工夫を重ねながら業務に取り組んできました。そういった仕事の中で、JAISTで鍛えた力、課題を見つけた時にそれを解決するための基礎力が活かされていると感じます。その力は世の中で戦っていくために必要なものであり、JAISTの指導陣は本気で学ぶ人に親身になってくれるので、短い時間の中でもしっかりと基礎力をつけられる環境であると思います。

人生の舵を大きく切れたのは JAISTで学べたから。今も、 原動力は未知への好奇心です

Voice of the Graduates

浅沼 雅行 ◆ Masayuki ASANUMA

株式会社構造計画研究所
電波技術室 第一級陸上無線技術士

2007年知識科学研究科 博士前期課程修了

◎ 偶然見つけたパンフレットにより 人生を方向転換

もともと大学では、建築の勉強をしていて、そのうち都市防災の設計や災害発生時の通信ネットワークへと興味広がっていきました。卒業後は、都市防災の仕事に関われるということで某設計事務所に就職。ところが配属されたのは、なぜか系列会社の塾講師でした。配置換えはないとの会社からの通告に落胆していた時、友人宅で偶然目にしたのがJAISTのパンフレットでした。何気なく見ると、林研究室の紹介ページで手が止まりました。「これ、自分がやりたかった研究だ」と思い、林幸雄先生に連絡をとってみると関連書籍を送ってくださいました。「もうJAISTで林先生に学ぶしかない!」と人生の方向転換を決心。入試に向け、全力で準備を始めました。

JAISTで得たものは、いろいろあります。まったく縁がなかったプログラミングも、必要に迫られたとはいえ身に付きました。サーバ室で先輩と泊まりこんで、死にものぐるいで論文を仕上げたことも…。そして、大きな財産になっているのが、林先生に教えられた「ネットワーク」という考え方です。コレとコレを繋げたら何か面白いモノになるかな?と考える癖がついていますね。

今は防災と少し離れ、無線や電磁波の研究部署にいます。実は、自動車の探知レーダーをはじめ、無線通信や電磁波技術の利用拡大が予想されるのに、世界的に無線技術者が不足しているのです。最近は無線の専門家として私も臨時講師を頼まれることもあります。教わる側だった自分が教える側にいるのは妙な気分ですが、学ぶという最良のチャンスをくれたJAIST時代を思い出し、若い人を育てる一端を担えればと思っています。

成果を出そう、 学会へ出よう、と 研究に打ち込んだ日々

Voice of the Graduates

6

天満 美和 ◆ Miwa TENMA

帝人株式会社 オートモーティブ プラスチックス
グレージング事業推進部

2007年マテリアルサイエンス研究科 博士前期課程修了

◎ 新しい研究室をつくっていく 一体感の中で

将来は化学系の研究職に就きたいと思い、その夢に近づくため修士課程へ進もうと考えました。学部も化学系でしたが、そのまま大学に残るよりまったく新しい場で学んでみたいという気持ちがあり、そこへ学部の研究室の先生から、大学院だけの大学があって研究設備も優れている、田舎らしいけどその方が遊ばず勉強できるだろう、と勧められたのがJAISTでした。行ってみると、確かに山の中。周囲から孤立していてちょっと怖いという印象でしたが、学生はみんな新しく何かに取り組みようという気概で集まっていて、すぐに仲良くなれ、環境にも馴染むことができました。

“身近な物から航空宇宙分野まで、幅広い樹脂の開発”という紹介に魅力を感じて、できたばかりの山口政之先生の研究室に入りました。先生も一期生メンバーも、みんなで研究の場をつくっていきこうという雰囲気に満ちていましたね。私が取り組んだ研究は、ガラスに代わる透明なプラスチック樹脂の開発というテーマ。研究室では夜遅くまでつめて実験をしたり、時には鍋を囲んだり、充実した楽しい思い出が残っています。研究成果が出れば、積極的に学会に参加させてくれたので、みんな何か発表しようという意欲で頑張っていました。この2年間で研究の面白さを知り、その後念願だった研究職についてからの取り組みの基礎が培われたと感じています。企業で研究の仕事をしたという人は、様々な制約のある組織に入る前に、JAISTで思い切りやりたい研究に打ち込んでおくといいと思います。



JAISTは研究者としての私の原点。 情熱と志に応じてくれた 最高の学び場です

Voice of the Graduates

飯塚 亜紀子 ◆ Akiko IIZUKA

株式会社日立製作所
研究開発グループ

2005年材料科学研究科(現マテリアルサイエンス研究科)博士前期課程修了

◎ 研究者になる夢を抱き、 一意専心の2年間

私の経歴は、研究者としては異色かもしれませんが。高校卒業後、パソコン関連の出版社に勤めました。今の仕事とは畑違いですね。当時はパソコン雑誌の全盛期で仕事はやりがいがありましたが、3年ほど経ったころ、もともと好きだった化学の道に進みたいと思うようになりました。そこで大学に入学し、化学を基礎から学んで無機化合物の合成をテーマにした卒業研究も行いましたが、もう少し研究を続けたいと思い、大学院へ進む道を選択。インターネットでJAISTの事を知り、化学と物理を授業で徹底的に学べるところや、入学後に研究室を選べる点に惹かれました。

実は、実家から通える大学院も選択肢にあったのですが、都会から離れて学んでみたいと思ったのもJAISTを選んだ理由です。夏には川に蛍が来るような静かな環境は、集中するにはうってつけ。素晴らしいクリーンルームや24時間使える図書室など、充実した施設もあって、まさに研究三昧の日々でした。研究室は、人柄と研究内容に惹かれ、高村禪教授の研究室に入りました。実験に行き詰った時は、よく相談にのっていただいたものです。

採用人数が少ない研究職に就けたのは、JAISTで培った「プレゼン力」が役立ったと思います。当時は微小流路における化学分析手法の研究をしていたのですが、主体的で最適なアプローチ方法や、柔軟な考え方を身に付けられたと思います。現在は、LED関連の製品に携わる仕事をしており、すでに製品化されたものもあります。自分が関わった製品が世に出るのは研究者の醍醐味。今後も、良い製品を世の中に送り出していきたいですね。

充実した日々の中で 鍛えられた、目標に向かう力

Voice of the Graduates

8

加西 弘人 ◆ Hiroto KASAI

ソニー株式会社 MBU LS 事業部
エンジニアリングマネジャー

1998年材料科学研究科（現マテリアルサイエンス研究科）博士後期課程修了

◎ 大学院からゼロベースでスタート

工学部で学んでいた頃に、分野を変えて勉強をやり直したいという思いを強くしていたところ、通っていた大学の近くに、新しく大学院大学ができる、たとえ知識がゼロベースでもやる気があればチャンスをもたらすと聞き、JAISTを受験した次第です。

材料科学研究科（当時）の1期生として入学し、念願のテーマであった太陽電池について学ぶために、該当分野を研究されている松村英樹先生の研究室に入りました。松村先生の研究室では太陽電池や液晶ディスプレイに用いられる半導体の成膜技術を研究していましたが、当時その分野の知識は全くなく、ゼロからのスタートでした。松村先生には基礎から教えて頂き、自分のやりたかった研究テーマにも取り組めるようにして下さい、充実した研究生生活を送ることができました。その点にはとても感謝しています。一方、特に後期課程での博士論文作成では、データがうまくまとまらないなど壁にぶつかり、将来への不安も抱えながら精神的に大変辛い時期もありました。今振り返れば、よく頑張ったと思います。しかしその経験は、たとえ結果が出なくても動じない、どんな環境にあっても目標に向かって踏ん張れる力をつけてくれたと感じます。また、専門以外で幅広い知識を得られたのも貴重な経験になりました。私の場合、サブテーマで高分子を学んだのですが、現在の仕事は、細胞分析装置に用いられるマイクロ流路チップの開発に関わっており、そこで高分子材料を扱っていて、サブテーマで取り組んだ実務経験、知識が生かされています。JAISTの多岐にわたるカリキュラムは、勉強をやり直す意味で非常に優れていると同時に、社会で役に立つ力をつけてくれるものと思います。

思い描いた将来への 出発点となった、 中身の濃い2年間

Voice of the Graduates

宮川 真紀代 ◆ Makiyo MIYAKAWA

株式会社資生堂 化粧情報開発センター
プレステージブランド情報開発グループ

2011年マテリアルサイエンス研究科 博士前期課程修了

◎化粧品をつくりたい、その一念で

以前から化粧品に興味があり、常にアンテナを張ってまわりの友人たちに新しい情報を提供していたので、学部で就職活動を始める際にも、やはり化粧品に関わる仕事がしたい!と思ったのです。ただ、情報科学を専攻していた自分にとっては未知の世界であり基礎知識もない。そこで大学院で関連分野を勉強しようと決心して探したところ、専門外の私にも門戸を開いてくれたのがJAISTでした。

入学後の半年間ほどは、それまで無縁だった生物等の勉強に集中し、研究室配属後には人工細胞膜である“リボソーム”の性質について、ひたすら実験、解析、考察を繰り返す毎日。リボソームとは何者なんだろうという、答のない課題に取り組んだ時間は、自分の探究心そのままに突き進むことのできた貴重な経験になりました。この時に身につけた何かを解明するためのプロセスは、その後念願だった化粧品開発の仕事に就き、実際の製品づくりに臨んで様々な試行錯誤をする中で活かされてきました。

JAISTの研究室で仲間と一緒に頑張った時間は、とても充実していましたが、研究一辺倒ではなく、入学後すぐに友達の輪が広がって、自然の中でバーベキューをしたり、スキーなどに連れだって出かけたりと、大学院生活の楽しかった思い出がたくさん残っています。山の中に忽然とビルがあって、“要塞”とも呼ばれる環境ですが、何もなかったのがかえって学生同士の結びつきを強くしたようです。一言で言えば、私にとってとても濃い2年間でしたが、前向きに頑張ろうと言う人を、JAISTはきっと同じように迎えてくれるでしょう。



多彩な分野との交流が 自分の枠を 越えていく力となる

Voice of the Graduates

10

荒木 俊輔 ◆ Syunsuke ARAKI

ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社
インターベンショナル カーディオロジー事業部
マーケティング統括部 プロダクトマネジャー

2007年知識科学研究科 博士前期課程修了

◎ 自分の幅を広げるため、新分野へ挑戦

工学部で化学や物理の勉強をする一方で、文系の社会科学的な世界にも興味があり、大学院ではそういった領域の知識を深めて自分の幅を広げたいと考えていました。そんな学部時代に出会ったのがJAISTで初代の知識科学研究科長を務められた野中郁次郎先生の『知識創造企業』という著作。これに感銘を受けたのが同研究科を目指したきっかけです。入学後は同書のキーワードである「ナレッジマネジメント」にも関連するテーマとして、社寺を専門とする宮大工の知識や技術がいかに伝承、習得されていくかについて社会学的なアプローチを行いました。着任されて間もない文化人類学の伊藤泰信先生の研究室に第1期生として入ったのですが、テーマの選択も自由であり、のびのびと研究を進められる環境だったと思います。また、知識科学研究科では隣り合う研究室でも全く違った分野を扱っていて、自身の研究を離れた交流も非常に面白かったですね。いま、仕事をしていても感じますが、一つの世界にのみり込んでいると頭が固くなってしまいがちです。その点で、多彩な研究が一体となったJAISTは刺激的で自分の枠からはみ出るアイデアも生まれやすい、恵まれた環境だったと思います。

現在は医療機器メーカーのプロダクトマネジャーとして、担当する心臓系カテーテル製品の開発から販売までのプロダクトマネジメントを任されています。医療に貢献する先端機器を全国の病院に広めていくという仕事はダイナミックであり、責任も重大ですが、今後は外資系企業の一員としてよりグローバルに仕事をしていきたいと考えています。

自分を変えたい。 その思いを成就させた JAISTでの2年間

Voice of the Graduates

11

磯貝 典仙 ◆ Norihisa ISOGAI

パナソニック アドバンステクノロジー株式会社
先行基盤推進室 室長

2003年情報科学研究科 博士前期課程修了

◎ このままではいけない、 と選んだ大学院大学への道

厳しい場に身を置こうという思いで、JAISTを志望しました。学部の延長ではなく、一から学び直すのにふさわしい大学院大学で勉強に打ち込み、自分を磨きたかったんです。その気持ちに至ったきっかけの一つは、NHKの番組で大学生が国際会議に出ている姿を見たことでした。学生としての本分を追究していて、自分とはだいぶ違う。このままではいけない、自分を変えたいという焦りが生じたんです。入学後、研究室へ入る際も一番厳しそうなところを、と考え、情報セキュリティの分野で有名な宮地充子先生の研究室を希望しました。入るためにはそれまでの授業で優秀な成績を修めねばならず、大学に寝泊まりして勉強したものです。念願叶って、宮地先生の下で暗号の解析をテーマに研究を行いました。当時は世界的に使用されていた暗号がハッキングされ、情報の安全に危機意識が高まってまっていた頃でした。宮地先生の活躍の場も広がり、アメリカにも行かれていましたので、現地と結んで、早朝5時に研究室の会議ということもあって、学生泣かせでしたね。しかし、そんなアクティビティの高い研究室でしたので、私も国際会議で発表したり、論文が論文誌にも掲載されるなどの成果をあげることができました。そして、宮地先生の下で問題の本質を見極める力を養ったことは、仕事にも役立つ大きな糧となっています。厳しくも充実したJAISTでの2年間で、私は自分自身を変えることができました。とても恵まれていたと思います。同じように、自分を変えたい、努力をして夢ややりがいをみつけない、そんな人にとってうってつけの場であると思います。

文理融合の環境が、 物事を大きく捉える目を 養ってくれました

Voice of the Graduates

12

阿部 真美子 ◆ Mamiko ABE

株式会社東芝
研究開発センター システム技術ラボラトリー

2003年知識科学研究科 博士前期課程修了

◎ もっと学びたいと社会人を経て JAIST へ

高等専門学校で電気工学を学び、コンピュータ関係に就職したのですが、仕事の中で自分にコンピュータサイエンスや情報工学についての知識が足りないと痛感したんです。もっと勉強したいとの思いで仕事を辞めて大学3年に編入し、さらにその先の大学院を目指そうという時に知ったのがJAISTの存在でした。当時は人間の脳に興味があり、関連分野の研究ができそうな知識科学研究科を志望し、藤波努先生の研究室で職人の技と呼ばれるような技能の習得についての研究に打ち込みました。

入学して驚いたのは、知識科学研究科では約半数を文系出身者が占めていたことで、ずっと理系の世界にいた自分にとってカルチャーショックでした。理系の考え方では、物事を細分化し、小さな差異を追究していくものですが、文系の人間はもっと大きな捉え方をします。感覚や思考、論文の書き方まで違うため、当時は違和感を持ったものです。しかし今振り返れば“文理融合”の環境で多様な考え方に接したことは社会で生きていく上で非常に重要だったと実感しています。現在はIoT (Internet of Things) 社会に関わる基盤技術、具体的にはビルソリューション等に取り組んでいて、再び理系の世界に浸っていますが、仕事の中で、大きな視点で物事を捉えられるのはJAISTでの経験が生きていると感じます。

私自身社会人経験を経て入学しましたが、そういった多彩なバックグラウンドをもっている学生が多いのもJAISTの特徴だと思います。多様性に富んだ環境でたくさんの刺激を受けられる学生生活は、きっと後々の力になってくれるでしょう。

知識と情報を蓄えた2年間。 プレッシャーというハードルを 越えられました

Voice of the Graduates

13

田高 礼子 ◆ Reiko TAKO

日本放送協会 放送技術研究所
ヒューマンインターフェース研究部

2002年情報科学研究科 博士前期課程修了

◎ひとまわり成長するために JAIST へ

電気・情報系の学部で、記憶や視覚、聴覚などを学んでいた頃、研究室でたまたま音声担当になったのがきっかけで、音声研究に心を惹かれるようになりました。卒業後は、音声に関わりたいという漠然とした目標はありましたが、大学院に進むか、就職するかで迷っていました。そんな時、就職活動の一環で会社見学をする機会があり、企業の求める人材と自分の実力の差に愕然としてしまったのです。すっかり自信をなくし、「このまま社会に出るのは不安」と、大学院に進む道を選びました。

JAISTを志したのは、以前から赤木正人教授のこと知っていて、改めてホームページで赤木教授の研究テーマを見て深く共感し、その下で学びたいと思ったからです。JAISTの第一印象は、学生のやる気が凄いということ。本気で何かを学び、身につけたいという雰囲気が漂っていました。かといってギスギスした人間関係はなく、特に赤木研究室のメンバーとはすぐに打ち解けました。

赤木教授は、とにかく知識が広く、どんな問題にもパッと答えを出せる方でしたし、外部講師を招いてのセミナーでは、時事問題から最新科学といった専門情報まで知ることができました。幅広い知識を吸収するうちに、マイペースな私でも、徐々に「これで何とかやっていける」と、自信を取り戻すことができました。だからこそ、希望の就職先にも臆する事なくチャレンジできたのだと思います。今は音声合成に関わる処理の仕事に携わっていますが、行き詰まった時は、まるで目次を繰るように「ああ、赤木研でこんな事をやっていたな」とJAISTでの2年間の思い出出し、解決策を探ることがありますね。

研究分野の第一人者に 指導を受けながら、書き続け、 評価を得た研究論文

Voice of the Graduates

14

櫻井 快勢 ◆ Kaisei SAKURAI

株式会社ドワンゴ
UEI リサーチ 研究員

2013年知識科学研究科 博士後期課程修了

◎ 真っ赤に添削された論文原稿に奮い立つ

2008年にJAISTの前期課程を修了し、印刷系の企業に就職したのですが、2年ほど勤めた頃に以前の研究を続けたいと思い立ち、後期課程に入りました。仕事を辞めてもいい覚悟でしたが、幸い会社に在籍したまま、古巣である宮田一乗先生の研究室に戻ることができました。

CG等を研究領域とする宮田先生の下で、私が前期に取り組んだテーマは、テクスチャーと呼ばれる平面上の質感や模様、凹凸の表現で、これを自動生成するアルゴリズムの開発にあたりました。後期ではその延長として3次元での構成へと発展させていきました。このテーマはもともと宮田先生の専門であり、せっかく当該領域で一流の研究者である宮田先生のところに行くのだから、なるべく近い分野に関わって、その技や考えを盗んでやろうと目論んだのです。宮田先生に限らず、JAISTに入学してまず感じたのは、先生が別格に賢く、それぞれの分野の第一人者が揃っていることでした。生半可な気持ちではとても太刀打ちできないと、恐ろしく感じたものです。研究生活では、とにかく論文をたくさん書き、宮田先生からは文字通り真っ赤になった“丁寧な”添削が戻されました。それが悔しかったので、論文を書き続けて、結果的に30本ほどの原稿を仕上げ、10件程度の賞を受けることができました。また、学会に出席する機会が増えたことで、人脈を広げるという自分の目標につながることもありました。先生の助けや整った設備なども大きな助けになり、納得できる結果を出せたことを嬉しく思っています。もろもろ運が良かったと思っています。

分野も経歴も様々な人々が 集まり、学び、語り合った 開学の頃

Voice of the Graduates

15

小野 哲雄 ◆ Tetsuo ONO

北海道大学

大学院情報科学研究科 教授

1997年情報科学研究科 博士後期課程修了

◎ 自由で刺激的な雰囲気彩られた 学生生活

私がJAISTの博士前期課程に入学したのは、30歳を越えてからでした。教育学部を卒業後、20代後半にコンピュータの専門学校に勤めるようになってコンピュータに興味を持ち、折しも世の中には人工知能ブームが到来。人間のように賢いロボットがつかれる、そんな夢も語られて、これは面白そうだと、大学院を目指したのです。当時は社会人が入れる大学院がほとんどなく、私のような経歴でも受け入れてもらえるのがJAISTでした。さらにありがたかったのは、門外漢の者に対しても最初に基礎を教えてくれた点であり、情報系学部で学ぶ4年間をギュッと濃縮したような授業により、研究に入るための知識を固めることができました。その後、特に将来を考えずに続けたロボットの研究が面白くなり、ドクター修了後も今に至るまで研究の道を歩み続けています。

JAISTでは一期生だったことも影響してか、私を含めてまわりの学生は経歴も様々で、哲学、教育学、数学と、異分野から集まった学生がお互いに刺激し合い、寮生活では、毎夜科学について、研究について議論したものです。大学草創期の熱く自由な雰囲気があり、仲良くなった地元の方から畑を借り、“JAIST農園”と名付けてスイカを作ったりと、楽しい毎日でした。当時の多様性に富んだ、熱い研究の場は今も連続と受け継がれていることと察します。近年、各大学院の定員が増やされ、進学の実選択肢も広がる中でJAISTには恵まれた教育研究設備、そして都会から離れ、学問的な流行にもあまり左右されない環境があります。自分の頭で考えオリジナリティを生み出したい研究者には格好の場であるように思います。



研究室での丁寧な指導は、 その後に役立つ 大きな力になりました

Voice of the Graduates

16

西田 梢◆ Kozue NISHIDA

シヤチハタ株式会社

R&D 統括室

2006年情報科学研究科 博士後期課程修了

◎ 根っからの理系女子として ドクターを目指す

高専で電子制御を学び、大学工学部3年に編入、そしてJAISTに進みましたので、理系の道をずっと歩んできたことになります。今でいう“リケジョ”ですね。小学生の頃に、父が初期のパソコンを買ってくれたのも、科学の世界に入るきっかけの一つでした。大学院への進学を考えたのは、学部4年で就職活動を始めた頃のこと。自分にはこれならNo.1と誇れるものもなく、どうしても多数の学生の中の一人に埋もれてしまう。それなら、“レア度”を高めるしかない、当時は希少だった、女性で理系のドクターを目指しました。

工学部では暗号について勉強していましたので、JAISTでも同じ領域での研究をしたいと思い、情報セキュリティに関わる宮地充子先生の研究室に入りました。そこで取り組んだのは「電子署名」。いわば印鑑を電子化したもので、今の仕事にもつながるテーマです。研究室では週に1回、研究の状況を発表する場が設けられていて、宮地先生から細かな指摘や質問を受け、他のメンバーからも意見が交わされました。そうしたやりとりによって、自分が気付いていない点が見えてくるとともに、問題が生じた時の考え方や解決の手順といった、研究とはどう進めるべきかについての理解が深まり、とても良い勉強になりました。また、プレゼンに関してもスライド等の作り方や話の組み立て方、言葉遣いなどを学べたことはとても有益で、プレゼンの機会が多い現在の仕事で大いに役立っています。在学当時は気付いていませんでしたが、JAISTできめ細かな指導を受けられたことで、社会で必要な力が幅広く身についたと今は感じています。

キャリア支援

JAIST から社会へ。多様なキャリア形成と実現を支援

本学の先進的な教育システムで、学生たちは、世界に通用する「知的たくましさ」を備えた高度専門職業人、専門技術者、研究者へと成長します。修了後、社会や産業界で活躍するべく、一人ひとりのキャリアプランを支援し、充実した就職支援システムで就職活動を応援します。



● 進路ガイダンス

入学間もない時期に、将来の進路を考え、進学・就職スケジュールを理解するため、新入生進路ガイダンスを実施します。また、求人側の特性や動向に合わせた学系別進路ガイダンスを実施します。

● 就職対策セミナー

就職活動に必要な基礎知識を身につけるために、企業の採用活動にも携わる専門の講師が就職活動のノウハウを数回に渡り伝授します。大学院生向けに特化したこれらのセミナーは、学生から「役に立つ」「自分の就職活動に活かせる」と好評です。

1. 自己分析対策

3. 履歴書・エントリーシート対策

2. 業界・企業研究

4. 面接対策・マナー指導

● 学内業界研究セミナー／企業セミナー（合同・個別）

企業の個別セミナー（説明会）を学内で随時開催します。また、多数の企業が参加する学内合同業界研究セミナーを100社規模で実施します。

● カウンセラーによる就職相談

専門のキャリア開発カウンセラーが親身になって相談に応じます。必要な時に適切なアドバイスが受けられます。

● さまざまな経費支援

SPI 模擬試験	就職試験対策としてSPI 模擬試験を年数回実施しています。受験料は大学が負担します。
キャリア形成活動費支援	キャリア形成活動推進のため、企業での研究開発や社会での技術動向の調査研究、就職活動等に交通費等を助成しています。
インターンシップにかかる支援	就労日5日間以上のインターンシップにかかる交通費等を助成しています。 (博士後期課程学生のみ)
その他ガイダンス・セミナー	本学就職支援室にて行うガイダンス、セミナーは全て無料で参加できます。

その他、面接トレーニング、就職支援情報システム (JAIST キャリアサポートシステム)、JAIST オリジナル履歴書など、強力で就職活動をサポートします。

国立大学法人

北陸先端科学技術大学院大学

〒923-1292 石川県能美市旭台1丁目1番地

TEL : 0761-51-1111 E-mail : daihyo@jaist.ac.jp (代表) /kouhou@jaist.ac.jp

